宝玉列伝　～琳悠国史～

深山　雅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
宝玉列伝　～琳悠国史～

【Ｎコード】
Ｎ０３５８Ｚ

【作者名】
深山　雅

【あらすじ】
この世界とは異なる異世界。そこは２つの大国と６つの小国から成る大陸が４つと、５つの島で成る『塔』とよばれる機関で成り立つ世界である。
この世界では国はそれぞれ１つずつ宝玉を持ち、その所有者が『王』となる。代々続く王家を持つ専制君主制国家もあれば、議会や民で所有することで民主制、共和制をとる国もあった。
これは、南の大陸『赤大陸』にある大国の１つ『琳悠国』での、ある人物の伝記である。

第０章　１　ある女性の苦しみ（前書き）

筆者の文章力が拙いので伝わりにくいかもしれませんが、時々流血・残酷表現が入りますので気をつけてください。

第0章　1　ある女性の苦しみ

「うっ・・・く・・・・・・はぁ・・・」

薄暗い部屋の中で、苦しげな女性の声が響く。

広々とした無機質な室内には、寝台に横たわる妙齢の女性の他に人はいない。

豪奢な寝台に横たわり、上等な絹の寝巻きを纏い、冴え渡る美貌を持った妙齢の女性である。

女性は額に脂汗を浮かべ、苦悶の表情で痛みに耐えていた。

「どうして、私が・・・こんな・・・」

彼女ははちきれんばかりに膨らんだお腹を憎々しげに睨んだ。

「どうして・・・・・こんな子を産まねばならないの・・・？」

それが己の苦痛に繋がることを理解しながらも、彼女は力の篭らない拳で己の腹を殴りつける。否、腹ではなく、胎の子をと言うべきか。

「くぅ・・・！」

弱々しい刺激ではあったが、彼女の陣痛を悪化させる効果はあったらしい。それでもその手は止まらない。

「なんで・・・・どうしてよぉ・・・・！！」

第0章　1　ある女性の苦しみ（後書き）

初めての小説投稿です。
ちゃんと続けられるかは不安ですが、呼んで下さるとありがたいです。

第０章　２　地獄の始まり

彼女の名は美珊（みさん）。赤紫地方の大国であるここ、琳悠国国王の第６夫人である。

とはいえ、その地位や名誉を美珊が喜んだことは、ただの一度も無い。

彼女には既に幸せな家庭があったのだ。優しい夫と可愛い息子。決して豊かではなかったし、生活も苦しかったが、溢れんばかりの愛情に包まれていた。

美珊と夫は共に旅芸人の一座に属し、自然と・・・いつの間にか愛し合うようになっていた。踊り子であった美珊と、笛吹きの夫。３つの息子も父親の真似をしてか笛を吹くようになり・・・ありふれた、けれど幸せな日々。

その崩壊は・・・呆気なく訪れた。

そもそもは、いつも通りの興行だった。街で芸を披露していたのがたまたま役人の目に留まり、一座は王宮に招かれた。

夜の宴の余興として、王に見せ・・・褒めの言葉まで頂いた。皆、光栄と感激に打ち震えたものだ。

王が、美珊を夜伽に所望するまでは。王は美珊を見初めてしまったのだ。

確かに、彼女は美しく魅力的な女性であった。しかし既に夫も子もいる身。いくら王とはいえ、流石にそれは人道に悖ると、拒絶した・・・そして、その時から地獄は始まった。

用意された部屋に一座共々戻った直後、王の使者だという男より金子を賜った。彼らは興行の代金だろうと、何の疑問も持たずに受け取ってしまう。

そのほんの数分後の事であった。

王の私兵が部屋に踏み込み、盗人を捕らえると言い出したのは。捕まったのは・・・美珊の夫だった。

それは賜ったものだ、盗んでなどいない・・・そう訴えても、信じては貰えなかった。否、始めから聞く気など無かったのだ。
何故なら、それこそが王の手であったから。始めから、美珊の夫に罪を擦り付けて彼女を手に入れるつもりだったのだろう。夫の無実を訴える彼女に自分のモノとなれと言い放ったのがいい証拠だ。そうでなければ、夫に死罪を言いつける、と。
それによくよく思い出してみれば、あの使者はその金子を美珊の夫に押し付けていった。一座の長が受け取ろうとしても、頑として譲らなかった。あの時点で気付けば良かったと後悔しても、もう遅い。
美珊は、諦めた。
相手は一国、それも赤紫大国の長であり、本当にそれだけの権力を持っている。
どうせ王は、幾人もの美女を後宮で囲っている。少し毛色の違う女が物珍しいだけだろう、ほんの数時間の我慢だ、彼の命には代えられない・・・。
地獄の一夜であった。けれど、夫のため、今だけの辛抱だと思えばこそ、耐えた。
まさか、『地獄の一夜』が『地獄の始まり』だったなどと、夢にも思わず。
王は美珊を本格的に気に入り、傍に留め置くことにしてしまった。
そのために翌日、彼女の夫の首を落とした。
彼女の目の前で、窃盗の咎だと言って。
耳を劈くような断末魔の悲鳴、転がる生首、見開いた目、吹き出す鮮血、ゆっくりと傾いでいく躯。今でも彼女の脳裏に焼きついている。
彼女の夫を殺すことは、ある意味では人質を失うということだ。それでも王がそれを行ったのは、他にも人質になり得る存在があったからだ。彼女たちの息子が。
あえて彼女の目の前で夫を殺し、言うことを聞かねば子供も同じ

目に合わせると脅したのだ。まだ、たった3才の幼子の首を、落とすと言う。

美珊に逃げ道は無かった。

第０章　２　地獄の始まり（後書き）

まだまだ序章です。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0358z/

宝玉列伝　～琳悠国史～

2011年12月1日13時51分発行